

香川県新行財政改革基本指針

— 時代の要請に応えられる行財政運営の確立 —

平成29年度実績

本実施計画は、「香川県新行財政改革基本指針」に基づき、行財政改革を着実に進めるため、平成 29 年度の実績を取りまとめたものです。

目 次

1 業務執行体制の最適化

1-1 簡素かつ効果的な組織体制の構築	1
1-2 サービス提供レベルの向上	5
1-3 他団体との連携・協働の推進	10
1-4 事務処理の効率化	20

2 人材育成・活用の最適化

2-1 多様な能力を持った職員の育成	25
2-2 人材活用の推進	29
2-3 優れた人材の確保	32

3 財政運営の最適化

3-1 歳入の確保	34
3-2 歳出の最適化	36
3-3 ファシリティマネジメントの推進	39
3-4 会計制度の見直し	40

1 業務執行体制の最適化

時代の変化に対応した組織の見直しと、適正な定員管理を行いながら、効率的で効果的な業務執行体制を構築し、質の高い県民サービスを提供します。

1-1 簡素かつ効果的な組織体制の構築

【項目A】時代の変化に対応した組織の見直し

組織体制が時代の変化や高度化・複雑多様化する行政課題に適応したものとなっているかを常に点検し、事務処理の効率性や組織としての専門性の向上といったさまざまな観点を踏まえ、組織が肥大化することのないよう留意しながら、課題に迅速に対応し、時代の要請に応えられる組織の見直しを行います。

平成 29 年度実績

○「新・せとうち田園都市創造計画」を推進するための体制整備

「新・せとうち田園都市創造計画」（平成 28 年度～平成 32 年度）を推進する体制を整えるため、4 月 1 日付組織改正を次のとおり実施した。

「成長する香川」

- ・第 6 次地方分権一括法の成立により、地方版ハローワークの設置が可能となったことから、若者の県内就職及び県外からの就職の支援並びに人材不足が顕著な業種の人材確保を行うため、労働政策課に「**就職・移住支援センター**」を設置した。
- ・平成 30 年度からの高松空港の管理運営の民間委託に向け、四国の拠点空港として、また、西日本のゲートウェイの一つとして、より一層、発展していくよう取り組むため、交流推進課に「**空港経営改革推進室**」を設置した。

「信頼・安心の香川」

- ・平成 30 年 4 月からの県広域水道事業体における業務開始に向け、企業団における諸規程の整備を進めるため、水資源対策課水道広域化推進室「**財務・企画グループ**」、「**財務グループ**」に再編した。
- ・交通死亡事故抑止等の交通安全対策の推進体制を強化するため、くらし安全安心課のグループを再編し、「**交通安全推進グループ**」を設置した。
- ・地域で支援を行う市町との連携を強化しながら、児童相談所の体制強化と母子保健施策を通じた虐待予防等を進めるため、子ども女性相談センターに「**地域連携支援室**」を設置した。

「笑顔で暮らせる香川」

- ・競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設、交流推進施設としての機能を併せ持つ新県立体育館の円滑かつ効率的な整備を推進するため、保健体育課に「**新県立体育館整備推進室**」を設置した。

○効率性や専門性の向上のための組織の見直し

事務処理の効率性や組織としての専門性を向上させるための組織改正を次のとおり実施した。

- ・平成 29 年秋季に本県で開催される第 41 回全国育樹祭の開催に向け、効果的かつ機動的に推進できる体制とするため、みどり整備課全国育樹祭推進室及び秘書課のグループを再編した。
- ・国民健康保険の都道府県単位化に向けた体制を強化するため、医務国保課国民健康保険室に 2 グループを設置した。
- ・地域包括ケアシステムの推進と介護保険者の支援体制を強化するため、長寿社会対策課のグループを再編した。
- ・平成 29 年 4 月に小豆島中央高校が開校することから、高校教育課に設置している「小豆島中央高校開校準備室」を平成 29 年 3 月 31 日に廃止した。
- ・平成 29 年 6 月に豊島廃棄物等の直島での処理が完了したことから、「直島環境センター」を平成 29 年 8 月 31 日に廃止した。

【項目B】適正な定員管理と人員配置

高度化・複雑多様化する行政課題に的確に対応するため、各部局において適正な定員管理と人員配置を行います。

平成 29 年度実績

○各部局における適正な定員管理と人員配置

- ・2,800人体制を基本として、高度化・複雑多様化する行政課題に的確に対応し、県民サービスの維持・向上を図る観点から、実員での人員体制の確保に努めるとともに、適正な人員配置を行った。(知事部局)
- ・児童生徒数の動向等を踏まえ、教育水準の維持・向上を図る観点から適正な教職員の配置を実施した。(教育委員会)
- ・交通死亡事故抑止対策の強化や大規模警備への対応など情勢の変化に応じ、適正・柔軟な定員管理・人員配置を実施した。(警察本部)
- ・水道施設の更新や耐震化などに対応するため、適正な定員管理・人員配置を実施した。また、「香川県広域水道事業体設立準備協議会」での協議状況等を踏まえながら検討した。(水道局)
- ・第3次県立病院中期経営目標(平成28年度～32年度)に基づき、人件費比率の適正化を図った。(病院局)

《職員数の状況》

部局名		27年4月1日 【参考実績】	28年4月1日 【実績】	29年4月1日 【実績】	30年4月1日	31年4月1日	32年4月1日	
知事部局		2,790人	2,784人	2,798人				
教育委員会	事務局	221人	221人	221人				
	学校	教員	8,040人	7,961人	7,911人			
		事務職等	508人	499人	490人			
	学校計	8,548人	8,460人	8,401人				
合計	8,769人	8,681人	8,622人					
警察本部	警察官	1,824人	1,837人	1,849人				
	事務職員等	274人	276人	269人				
	合計	2,098人	2,113人	2,118人				
水道局		73人	73人	73人				

部局名	26年度 【参考実績】	28年度 【実績】	29年度 (見込)	30年度	31年度	32年度
病院局人件費比率 (退職給付費を除く)	51.3%	51.1%	平成26年度 実績以下			

【項目C】本庁と出先機関の業務分担の再整理

県民サービスの向上及び業務執行の効率化の観点から、本庁に集約することで効率的となる業務や、逆に先機関で対応したほうが効率的となる業務がないかなど、改めて本庁と先機関の業務を見直し、適切に業務分担を行います。

平成 29 年度実績

○本庁と出先機関の業務実施状況調査

平成 28 年度に実施した調査に関する分析を行い、その結果を踏まえた本庁と出先機関の業務分担について、今後の方向性を把握・整理した。

○本庁から先機関への事務権限の委譲

県民サービスの向上及び業務効率化の観点から、事務を先機関に委譲した。

- ・過疎地域における県税の特別措置条例に規定する事業税又は不動産取得税の課税免除等の権限（税務課 → 県税事務所）

【項目D】グループ制のより効果的な運営手法の検討

業務を迅速かつ効果的に遂行できるよう、グループ内各職員の業務の進捗状況の見える化や、事務配分の柔軟な見直し、業務の平準化など、グループ制の機能を高める運営手法を検討します。

平成 29 年度実績

○グループ制の今後の運営の検討

組織・人員等の課題に対応し、グループ制の機能を高めていくため、グループ規模の適正化及び職員の指導育成力の強化に向けた検討を行った。

【項目E】外郭団体、県に事務局を置く任意団体等の見直し

外郭団体については、県の政策目的や団体の設立趣旨、社会情勢の変化を踏まえ、より健全で自立的な経営が行われるよう、団体の経営状況等を把握・評価のうえ、必要な見直しを行うとともに、適切に指導・監督を行います。

また、県に事務局を置く任意団体等については、団体の設置・運営に係る方針を新たに定め、より設置効果が上げられるよう的確に管理します。

平成 29 年度実績

○外郭団体の評価方法等の検討

外郭団体の健全で自立的な経営に向けて、経営状況等を、よりの確に把握・評価するための方策の策定に向けた調査・分析を行った。

○外郭団体への立入検査体制の整備

職員の立入検査の能力を向上させるため、公認会計士による外郭団体検査担当者研修会を実施した。(受講者 40 名)

○外郭団体職員の質の向上

外郭団体職員の資質の向上を図るため、県が実施する研修への参加を受け入れた。
(21 講座 59 名参加)

○任意団体の運用の見直し

任意団体の運用に関して、任意団体の業務に従事する際のサービスをわかりやすく周知した。

【項目F】附属機関等の見直し

附属機関等の設置目的や活動実態、効果等を改めて検証し、類似の機関等について統廃合を検討するほか、新たに設置しようとする場合には、その必要性について十分検討を行います。また、委員構成の改善を図るなど、より一層の効果的な運営に努めます。

平成 29 年度実績

○附属機関等の適切な運営

平成 28 年度に策定した「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づき、附属機関等の適切な運営を図った。(187 機関 (うち新規設置・廃止ともに 6) [平成 29 年 4 月 1 日現在])

1-2 サービス提供レベルの向上

【項目A】さまざまな閲覧環境への情報発信

情報通信技術の発達とともに、情報伝達の方法はますます多様化していくことが見込まれることから、新たな技術を活用した効果的な情報発信を推進します。

・さまざまな機器・閲覧環境で利用できるホームページの構築

県ホームページについて、スマートフォンやタブレットなどパソコン以外の機器の利用者や高齢者、障害のある人が不自由なく閲覧・操作できるように対応していきます。

・ソーシャルメディアの有効活用

最新情報を瞬時に届ける手段として有効なソーシャルメディアについて、セキュリティの確保や倫理性にも留意しながら、より効果的な活用方法を検討します。

平成 29 年度実績

○情報発信に関する研修の充実

効率的かつ効果的な広報を行うため、広報技術・能力の向上を図るための広報研修を実施した。(広報マインドアップ研修 34 名参加)

▼さまざまな機器・閲覧環境で利用できるホームページの構築

○県ホームページの見直し

高齢者や障害者の利用への配慮が不十分なウェブページについて、平成 27 年 3 月に新たに導入したシステムの機能を活用し、さまざまな機器・閲覧環境で利用でき、高齢者や障害のある人も問題なく利用できるページに順次移行させた。また、この機能で対応できないものについても、計画的に修正した。(行政情報提供システムへの移行 563 ページ)

○職員のウェブページ作成能力の向上

誰もが利用しやすいページを職員自ら作成できるよう、マニュアルを整備し、研修を実施した。(2 回実施 25 名参加)

▼ソーシャルメディアの有効活用

○県公式アカウントなどによる情報発信の推進

ツイッターやフェイスブックなどに県が開設した公式アカウントを活用し、平成 24 年 1 月に策定した「香川県民間ソーシャルメディア利用ガイドライン」に沿って、県政情報や防災情報、観光情報などを効果的かつ適切に発信した。

《平成 29 年度新たに開設したもの》

・ぼうさい@うどん県【フェイスブック】

県民の防災意識の向上を目的に、県内の防災に係る訓練、イベント等の紹介や身近にできる防災・減災対策の紹介などを発信した。

・みどりの学校@香川県【フェイスブック】

みどりの学校に関する情報やイベントのお知らせなどを中心に情報発信し、県民参加の森林づくりの推進について理解の促進に活用した。

・j o b ナビかがわ【ツイッター・フェイスブック】

県内での就職に関心のある県内外の方や若者に、県内就職に関する情報をタイムリーに発信した。

・さぬきの夢こだわり店【フェイスブック】

「さぬきの夢」の普及とブランド化を図るため、「さぬきの夢こだわり店」からのお知らせやイベント情報など、県民や観光客に役立つ情報を発信した。

・かがわの農村〔フェイスブック〕

「かがわの農村」の活性化につなげるため、県内の農村地域が持つ伝統文化や豊かな自然、人と人のつながりなどの魅力、都市と農村地域の交流に関する情報などを発信した。

・香川県看護師採用〔フェイスブック〕

県立病院への関心を高めてもらうため、看護師採用情報やインターンシップの情報、各病院の行事の様子などをタイムリーに情報送信した。

・香川県警察〔ツイッター〕

交通安全などの呼び掛けや採用情報のお知らせ、警察音楽隊のイベント予告などの情報を発信した。

○職員のソーシャルメディア活用能力の向上

・ソーシャルメディアを活用した効果的な情報発信を推進するために、「SNS 活用実践講座」の研修を実施した。**（修了者 15 名）**

・情報セキュリティ対策やソーシャルメディア使用に関するモラル、SNS を活用した広報について習得するために、「情報セキュリティ対策と SNS 利活用モラル」、「SNS 等を活用した広報」の講座を実施した。**（修了者 548 名）**

【項目B】タブレット端末等を用いたサービス提供の推進

県民サービスをより向上させるため、他県や民間における活用状況を参考にして、現地や窓口における県民からの相談等にその場で迅速に対応できるようにするなど、タブレット端末等の電子機器の活用について検討します。

平成 29 年度実績

○かがわ縁結び支援センターにおけるタブレット端末の活用

かがわ縁結び支援センターの窓口や出張相談等の場において、登録希望者への説明や会員の登録、閲覧・検索に際して、タブレット端末等の電子機器を活用して効率的に情報を提供した。

（登録者数 1,269 名、閲覧件数 3,842 件 [平成 30 年 3 月末現在]）

○就農希望者の現地指導におけるタブレット端末の有効活用

新規就農者等に対する就農相談などにおいて、農業改良普及センター等で収集・作成した情報等について、タブレット端末等を用いて情報提供を行った。**（就農相談窓口での経営モデル、労働時間の提示等）**

○情報通信技術の試験導入に向けた取組みの検討

情報政策課及び人事・行革課を中心とする研究会において、先進県の活用事例調査の結果を踏まえ、試験的導入に向けた取組みを検討した。

【項目C】 事業に役立つ知見を導出するためのデータ（ビッグデータ）の活用

国や民間事業者が保有するビッグデータを活用して、より正確で客観的な政策立案や業務執行を推進し、県民サービスの向上につながるよう取り組みます。

平成 29 年度実績

○「地域経済分析システム」(RESAS)の活用

地方創生の実現に向けて国が提供する「地域経済分析システム(RESAS(リーサス))を、産業政策をはじめとする政策立案や業務執行に活用した。**(香川大学で講義を実施：4月、香川県産業成長戦略の見直しにあたりRESASを活用)**

○地理空間情報を活用した防災・減災対策の調査検討

南海トラフ地震や風水害などによる災害から県民を守るため、携帯電話や自動車の位置情報に代表される地理空間情報を活用した効果的な防災・減災対策について、調査検討を行った。**(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構と共同研究契約の締結：4月)**

○ビッグデータ活用推進計画の策定

平成30年度の官民データ活用推進計画の策定に向け、関連施策の洗い出しを行うとともに、国の基本計画や都道府県計画のひな型を踏まえながら、官民データ活用の方策等について検討を行った。

【項目D】情報資産の開放（オープンデータ）の推進

県民や民間事業者と連携して地域の課題解決を実現していくため、県が保有する公共データを、利活用しやすい形式で公開するオープンデータの取組みを進めます。

平成 29 年度実績

○オープンデータの推進

県ホームページ内のサイトで公開しているオープンデータの拡充及びデータ形式の改善を進めるとともに、オープンデータの活用をより一層促進するため、オープンデータカタログサイトの構築を行った。**（公開データ数 2,211 件 [平成 30 年 3 月末現在] 平成 30 年 4 月公開に向けオープンデータカタログサイトの構築）**

【項目E】窓口サービスの迅速化・質の向上

窓口において迅速にサービスが提供できるよう、電子申請の活用や申請書類・添付書類の見直しなどにより手続きや処理の効率化を進めるとともに、職場での接遇診断の実施などにより職員の接遇能力の向上に努めます。

平成 29 年度実績

○電子申請の利用促進

県民の利便性向上と行政事務の効率化を図るため、行政手続のオンライン化推進や、行政手続の簡素化などによる電子申請の利用を促進した。**（総手続数 77 手続 [平成 30 年 3 月末現在]**

○窓口サービスの改善

窓口業務の質の向上を図るため、接客業務のある職場における接遇研修への講師派遣を実施した。**（職場での接遇研修の実施 3 所属）**

【項目 F】 時代の変化を踏まえた外部委託の推進

他県の状況や民間事業者の業務範囲の拡大を踏まえ、これまで外部委託していない業務について、委託可能な業務を幅広く検討の上、民間事業者が実施することによりサービス向上やコスト削減が見込まれる場合は、外部委託の活用を進めます。

平成 29 年度実績

○今後の外部委託の活用に向けた検討

新たな外部委託の活用に向けた可能性を検討した。

○新県立体育館の管理運営方法の制度設計

新県立体育館の管理運営について、民間のノウハウを活用し低廉で良質なサービスの提供が可能な手法の調査・検討を行った。**(制度の概要や先進事例の調査)**

【項目 G】 指定管理者制度の見直し

より競争性を高めるための応募者の増加策や、サービス向上のための評価制度のあり方を検討するなど、指定管理者制度の運用を見直します。また、現在、県直営の施設について、指定管理者制度の導入も含め、より幅広く運営のあり方を検討します。

平成 29 年度実績

○指定管理者制度の導入等に関する基本方針の見直し

「指定管理者制度の導入等に関する基本方針」を策定してから 10 年以上が経過するため、これまでの運用についての課題を整理して、現在の基本方針の見直しを検討した。**(指定管理者選定時の評価方法の改善)**

○指定管理者制度導入に向けた手法の検討

新たに導入を進める県直営の施設において、平成 28 年度に検討した施設の運営のあり方を踏まえ、指定管理者制度の導入に向けた手法を検討した。**(高松空港県営駐車場への指定管理者制度の導入)**

1-3 他団体との連携・協働の推進

【項目A】広域連携の推進

観光振興や震災対策など、広域的に取り組むことで、より一層の効果が期待できる分野について、四国や瀬戸内の各県をはじめ、他県等との連携を図っていきます。

平成 29 年度実績

○総合的な連携体制の構築

- ・中四国で連携する体制の構築
中国・四国地方の知事及び経済団体連合会の会長をメンバーとする「中四国サミット」において、広域的な課題等について意見交換を行うなど、中国地方と四国地方との交流拡大や中国・四国地方の一体的な発展を推進した。**(中四国サミット：9月)**
- ・四国で連携する体制の構築
四国知事会において、県境を越えた広域的な課題等への対応や、四国の総合力の向上や効率的な住民サービスの提供などにつながる取組みを推進するとともに、四国4県の合意に基づき、広域連携に資する施策を4県の連携のもと実施した。
- ・他県と連携する体制の構築
岡山県や高知県との知事会議を通じ、共通の課題等に対応し連携を進め交流や発展を図った。**(岡山・香川両県知事会議：10月、高知・香川両県知事会議：4月)**

○個別分野における連携体制の構築（主なもの）

- ・四国遍路の世界遺産登録に向けた広域連携の推進
四国遍路の世界遺産登録に向け、4県及び関係58市町村をはじめ、大学、NPO法人、経済団体等と連携して取組みを進めた。**(スペインでの展覧会：7～9月、来場者約1万人)**
- ・災害発生時の相互応援体制の充実・強化
災害発生時の県内各市町間の相互応援体制の充実・強化を支援するとともに、中国・四国ブロック内において広域災害が発生した際のブロック内の支援・受援体制の強化を働きかけた。**(中四国広域防災担当課長会議：7月、中四国広域防災責任者会議：11月、四国知事会と関西広域連合との間で「災害時の相互応援に関する協定」を締結：6月)**
- ・四国地域の産業競争力強化に向けた取組みの推進
四国4県、国の地方支分部局、経済界などで構成する「四国地方産業競争力協議会」において、四国地域の持続的な発展を図るため、四国産業競争力強化戦略に沿って各種施策を推進した。**(四国地方産業競争力協議会：平成30年3月)**
- ・近県と連携した広域観光の推進
「瀬戸内ブランド」の形成に向け、瀬戸内沿岸の7県等で構成する「(一社)せとうち観光推進機構」と連携して国内外へのプロモーションなどに取り組むほか、「四国ツーリズム創造機構」と連携して、四国が一体となった効果的な情報発信や誘客活動を展開した。
また、広域観光周遊ルートに認定された瀬戸内ルートと四国ルートを活用し、瀬戸内沿岸の7県や四国4県が連携した外国人観光客の誘客活動を推進した。
- ・四国の新幹線実現に向けた取組みの推進
四国の新幹線実現に向け、4県及び経済団体等と連携し、国等への要望や地元の機運醸成などの取組みを進めた。**(四国新幹線整備促進期成会の設立総会・決起大会・要望：7月、シンポジウム：平成30年2月、県単独でのシンポジウム：平成30年3月、期成会と「四国アライアンス地域経済研究分科会」と連携して経済波及効果や地域づくりの方向性を調査)**

- ・海外販路開拓事業の推進
四国4県と各県のジェトロ事務所で構成する「四国4県・東アジア輸出振興協議会」において、四国内企業等の中華人民共和国など東アジア地域における海外販路開拓事業を推進した。**(四国4県・東アジア輸出振興協議会：4回(各県1回)、上海量販店での四国フェア：9月、在上海日本国総領事館での商談会：9月)**
- ・重大な家畜伝染病発生時の防疫措置の推進
重大な家畜伝染病が発生し、必要な場合には家畜伝染病予防法に基づく県域を越えた防疫活動が行えるよう四国4県で「四国家畜防疫支援チーム」を構成している。**(平成30年1月の鳥インフルエンザ発生の際に、隣接県と連携して消毒ポイントの設置などを行った。)**
- ・サワラの資源回復に向けた連携
瀬戸内海沿岸11府県などで構成する、「瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会」において、国とも連携して資源管理及び栽培漁業を一体化して推進した。**(種苗生産・中間育成したサワラの稚魚を香川県1.3万尾、瀬戸内海全体約6.5万尾を放流)**

【項目B】市町との連携の推進

県と市町とが意見交換を緊密に行い、それぞれの特性を踏まえ、施策の実施効果がより高まるように役割分担するとともに、職員の人事交流を推進し、お互いに連携・協力を図っていきます。

平成 29 年度実績

○総合的な連携体制の構築

・市町との意見交換

直面する諸課題について市町長と意見交換を行う「市町長会議」や「トップ政談会」を開催し、県と市町との連携をより一層強化した。**(県市町長会議:5月、県・市町トップ政談会:11月(町長グループ)、11月(市長グループ))**

・人事交流の推進

特定の政策課題における連携強化や職員の人材育成等を図るため、市町との人事交流を推進した。**(6市4町と人事交流)**

水道事業の広域化などについて、関係する市町職員を県職員に併任し、県・市町が一体となった取組みを推進した。

○個別分野における連携体制の構築(主なもの)

・水道広域化推進に向けた連携

県と関係市町で構成する「県広域水道事業体設立準備協議会」において、平成30年4月からの県広域水道事業体による事業開始に向けて準備業務を進めた。**(基本計画承認、基本協定書締結:8月、香川県広域水道企業団設立:11月)**

・自治体情報セキュリティクラウドによる連携

サイバー攻撃等を防御するための高度なセキュリティ対策を実施するため、県と県内市町が共同で構築した自治体情報セキュリティクラウドを運用した。**(自治体情報セキュリティクラウドで未然に防御したサイバー攻撃の件数:790件)**

・「ART SETOUCHI」推進に向けた連携

県内関係市町等を構成員とする瀬戸内国際芸術祭実行委員会が実施主体となり、芸術祭閉幕後も残る作品を継続公開する等の取組みを行った。**(「ART SETOUCHI」の来場者約61万8千人[平成30年2月末現在]。瀬戸内国際芸術祭2019に向け基本計画を策定:8月、実施計画を策定:平成30年3月)**

・個人住民税の滞納額の圧縮に向けた連携

県とすべての市町が連携して、個人住民税の特別徴収の拡大に取り組むとともに、「香川滞納整理推進機構」を活用して、個人住民税の滞納整理に取り組んだ。

(個人住民税調定額のうち特別徴収の率78.9%)

(香川滞納整理推進機構による個人住民税徴収実績 約1.7億円[平成30年2月末現在])

・防災体制の連携強化

地域における防災・減災の諸課題に対応するため、「市町防災・減災対策連絡協議会」などを通じて県と市町の連携を強化した。**(4回開催:4月、7月、11月、平成30年3月)**

・野生鳥獣被害防止対策推進に向けた連携

野生鳥獣による農作物や人的被害の防止対策等を効果的に推進するため、県と市町等で構成する「香川県鳥獣被害防止対策協議会」を通じて、情報の共有や施策の連携・協力を図った。**(香川県鳥獣被害防止対策協議会:5月)**

- ・市街地に出没するイノシシによる被害の抑止に向けた連携
市街地に出没するイノシシによる被害を抑止するため、市町や関係団体等との連携を図った。**(市街地イノシシ緊急対応研修会：9月)**
- ・東京オリンピック・パラリンピック事前合宿の誘致に向けた連携
東京オリンピック・パラリンピック事前合宿の誘致などについて、関係市町や関係団体と連携し情報収集・誘致活動などを実施した。**(カナダ陸上競技連盟による事前合宿候補地の現地視察の受入れ：6月、高松市がホストタウンに登録：12月)**
- ・第41回全国育樹祭開催に向けた連携
県内関係市町等を構成員とする第41回全国育樹祭香川県実行委員会が実施主体となり、平成29年秋季に第41回全国育樹祭を開催した。**(11月19日開催 約5000人参加)**

【項目C】市町への権限移譲の推進

地方分権改革の動向を踏まえながら、市町で行うほうが住民の利便性向上により一層資する業務については、市町と十分に協議を行い、県の権限を市町に移譲することを検討します。

平成29年度実績

○市町への権限移譲

定住自立圏や連携中枢都市圏といった広域連携の仕組みの活用も図りながら、住民の利便性の向上につながるなど住民に身近な事務について、権限移譲を推進するとともに、移譲した事務が円滑に実施できるよう、移譲後のフォローアップなどにより、市町を支援した。**(香川県権限移譲推進方針に基づく条例による権限移譲。47項目650事務 [平成30年3月末現在])**

【項目D】大学等との連携の推進

県内大学等の持つ人的資源や知的財産を有効に活用して、地域の課題解決に役立てるとともに、こうした地域貢献により大学等の魅力を高めるため、大学等との連携を強化します。

平成 29 年度実績

○県内大学等との連携促進

県内大学等と県が協力して行う「大学コンソーシアム香川」の活動などを通じて、県内大学等が連携して取り組むことが効果的な広報活動や地域連携活動を行った。

県内大学等の特長を生かした魅力づくりを支援するとともに、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進するCOC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）などを通じて、県内大学等と地域の連携を進めた。

○大学との共同研究の実施（主なもの）

・地域強靱化に関する共同研究の実施

地域防災・減災力の向上及び高度な防災・危機管理を担う人材育成のため、DONET（地震・津波観測監視システム）の活用を含む地域強靱化に関する研究を香川大学と共同で行っている。

・里海づくりに関する共同研究の実施

香川大学と共同で、里海が目指す生物多様性の保全等に資する調査研究を実施した。

・希少糖に関する共同研究等の実施

希少糖研究の拠点機能を強化するため、香川大学などと連携して希少糖をより効率的に生産するための共同研究などに取り組んだ。

・キウイフルーツのかいよう病対策に関する共同研究の実施

キウイかいよう病（Psa3）への対策に資するため、香川大学との共同開発品種群「さぬきキウイっこ」などの耐病性について同大学と連携して調査した。

・採卵鶏へのズイナ葉給与に関する共同研究の実施

香川大学が設置した「かがわズイナ研究会」と連携し、希少糖を含有するズイナ葉の保存性と利用性を調査検討した。

・ノリ養殖業に関する共同研究の実施

海域の栄養塩濃度の低下によるノリの不作対策として、香川大学等と共同でノリ漁場での栄養塩添加手法の開発検討を行った。

・オリーブ葉の機能性に関する共同研究の実施

香川大学と共同で、オリーブ葉由来ポリフェノールが、ハマチなど魚類の組織や細胞に及ぼす影響を生化学的手法による解明に取り組んだ。

○大学との共同事業の実施（主なもの）

・「かがわ里海大学」の運営

里海づくりをけん引する人材を育成するため、香川大学と共同で「かがわ里海大学」を運営した。（25 講座実施、485 名修了）

【項目E】地域団体やNPO・ボランティア等との協働の推進

地域課題の解決に取り組む団体等との協働を推進し、行政のさまざまな分野において県民参画の取組みを進めます。

平成 29 年度実績

○地域団体やNPO・ボランティア等の支援

- ・多彩な地域コミュニティ活動の促進

地域づくりの主体となる地域コミュニティの構築に向けた研修を実施するほか、先進的な取組事例の紹介や地域づくりに関する助成制度等について情報提供や助言を行った。

また、市町や地域住民が主体となった地域コミュニティづくりに対する支援を行った。

(第 35 回地域づくり団体全国研修交流会香川大会：8 月)

- ・NPO等の意識・業務遂行能力などの向上

NPO法人研修会などを開催し、NPO等の意識・業務遂行能力などの向上を図った。

(NPO・地域団体等支援組織人材発掘セミナーを 3 回開催：8～9 月、受講者延べ人数 22 名)

○地域団体やNPO・ボランティア等と連携した事業の実施（主なもの）

- ・地域における防災体制の強化

市町や関係団体と連携し、災害時に機能する自主防災組織の育成強化や研修・講習会を通じた地域防災のリーダーの養成を推進するとともに、地域防災力を担う消防団員の確保に努めた。

- ・**地域防災力重点分野支援事業の実施**

：高松市 1500 万円、高松市以外の市 700 万円、町 400 万円の補助

- ・自主防災組織訓練支援フォローアップ事業の実施：92 件実施
- ・自主防災組織広域化促進事業の実施：30 万円の補助 16 件、25 万円の補助 1 件
- ・自主防災活動アドバイザー派遣事業：39 名委嘱、30 回 49 名の派遣
- ・自主防災組織リーダー研修会の実施：10 月開催 42 名参加
- ・消防団応援制度：登録事業所数 3,316 [平成 30 年 3 月末現在]
- ・消防団員募集の車内広告の実施：平成 30 年 1 月
- ・学生消防団員交流会の実施：11 月開催 50 名参加
- ・県、県消防協会、市町、消防団による消防団員募集活動 3 回

- ・環境教育・環境学習の推進における連携

民間団体等と連携し、学校や市町の市民講座など身近な場所において環境学習講座を実施し、多くの県民が環境教育・環境学習に触れる機会を設けることにより、県民の環境保全意識の高揚を図った。**(学校での講座 71 回実施、市町等での講座 16 回実施)**

- ・里海づくり推進における連携

かがわ里海づくり推進事業などにおいて、地域団体等と連携した里海体験ツアーの開催やクリーン作戦の実施など里海づくりを推進した。**(里海体験ツアー延べ参加者数 110 名、クリーン作戦延べ参加者数 5 万 6 千 6 百名、74 t 回収)**

- ・「みどりの学校」運営における連携

県民総参加の森づくり活動を推進するため、森林ボランティア団体等と連携して「みどりの学校」を運営し、様々な講座を実施するとともに、森林ボランティア活動の紹介と併せて一元的に情報発信を行った。**(体験、学習、実践講座計 87 講座 2,103 人参加、森林ボランティア団体数 14 団体 [平成 30 年 3 月末現在])**

- ・道路の美化・保全活動などの推進における連携
県の管理する道路について、道路愛護団体が一定区間の清掃、緑化などの維持管理を行う香川さわやかロード事業を実施した。**(141 団体 (新規 1 団体・廃止 5 団体) [平成 30 年 3 月末現在])**
- ・河川・海岸の環境美化・愛護活動などの推進における連携
県が管理する河川において、地域住民等の団体が清掃などの美化・愛護活動を行うリフレッシュ「香の川」パートナーシップ事業を実施した。**(97 団体 (新規 1 団体) [平成 30 年 3 月末現在])**
また、県が管理する海岸において、地域住民等の団体が清掃などの美化・愛護活動を行う「さぬき瀬戸」パートナーシップ事業を実施した。**(39 団体 [平成 30 年 3 月末現在])**
- ・違反広告物のない美しいまちづくりの推進における連携
違反広告物のない美しいまちづくりを目指して、「景観の日」に合わせて、道路管理者や警察署、市町、ボランティア団体等と違反広告物の県内一斉除却を実施した。**(36 団体 129 名 参加 : 6 月)**

○行政職員の意識啓発

NPOと行政の協働推進研修会を開催し、地域団体やNPO・ボランティア等との協働に対する行政職員の意識啓発を図った。**(受講者 27 名)**

【項目 F】民間企業等との連携の推進

民間企業等の専門性やノウハウなどを活用することで、事業の相乗効果が図られ、県が単独で取り組むよりも大きな成果が得られるよう、県政全般にわたって民間企業等との連携・協働を進めます。

平成 29 年度実績

○包括協定締結企業との連携

多岐にわたる分野において包括協定を締結している 9 企業と、協定内容に従い、協働できる事業を実施し、地域の一層の活性化や県民サービスの向上を図った。**(新たに生命保険会社 (2 社)、損害保険会社 (1 社) と包括連携協定を締結)**

○災害時応援協定の拡充

県と民間事業者等との間での災害時応援協定の締結を進め、官民が協力して、生活物資の確保などの対策を推進した。**(協定締結数：延べ 134 事業者 [平成 30 年 3 月末現在])**

○民間企業等との連携による事業の実施 (主なもの)

・交通事故抑止対策における連携

高齢者運転免許卒業生優遇制度における優遇店登録や県民への交通安全情報の提供への協力、各種街頭キャンペーンなど、交通事故抑止対策を推進した。

- ・優遇店数：1,054 [平成 30 年 3 月末現在]
- ・高齢者運転免許卒業カード発行枚数：117 [平成 30 年 3 月末現在]
- ・スーパーやコンビニエンスストアでの交通安全県民運動のポスターの掲示やチラシの配布 (延べ店舗数：1,073、延べ配布数：7,366)
- ・日本損害保険協会四国支部や J A F 主催の街頭キャンペーンなどへの協力 (6 回)

・地域の環境課題を解決するための連携

国立研究開発法人国立環境研究所や地方環境研究所等と連携して課題解決のための共同研究を実施した。**(平成 28 年度～30 年度 PM2.5 の環境基準超過をもたらす地域的/広域的汚染機構の解明)**

・県民総参加の森づくりの推進における連携

どんぐり銀行における払戻制度でポイント券を利用した割引特典などのサービスを提供する協賛企業の登録を推進し、どんぐり銀行活動の活性化を図った。また、「フォレストマッチング協働の森づくり」として、企業と連携した森づくり活動を行った。**(協賛企業等 81 社、フォレストマッチング協定企業 20 社 [平成 30 年 3 月末現在])**

・不法投棄対策における連携

県と民間団体間で、産業廃棄物の不法投棄を発見した場合の情報提供に関する協定を締結し、不法投棄の早期発見及び未然防止のための監視・通報体制を強化した。**(情報交換の連絡会：9 月、5 団体参加)**

・がん検診の受診率向上における連携

がん検診受診率向上プロジェクトに参画する企業グループと協力し、がん検診の受診率向上に向けた普及啓発を推進した。**(啓発用ポスター・チラシの作成・配布 (随時)、企業連絡会：6 月、がん関係イベントへの協力等：7 月、10 月、がん関係セミナー：8 月)**

- ・食育の推進における連携
 栄養成分の表示やヘルシーメニューの提供、健康情報の発信などを行う「健康づくり協力店」や、「三つ星ヘルシーランチ店」の登録を進め、健康づくりや食に対する意識を高めるための普及啓発を推進した。**(健康づくり協力店：698 店舗、三つ星ヘルシーランチ店：57 店舗 [平成 30 年 3 月末現在登録数]、三つ星ヘルシーランチ店での「かがわ食育月間」「かがわ食育の日」「1 日 3 食まず野菜！」普及啓発：6 月)**
- ・子育て支援の推進における連携
 社会全体で子育て家庭を応援する気運を醸成するため、企業の店舗等と連携し「みんなトクだね応援団」や「さんさんパスポート」登録店舗、「かがわこどもの駅」認定施設の拡充を促進した。**(登録店舗数「みんなトクだね応援団」272 店舗、「さんさんパスポート」550 店舗。認定施設数「かがわこどもの駅」463 施設 [平成 30 年 3 月末現在])**
- ・児童虐待に関する広報啓発における連携
 児童虐待に関する広報啓発について事業者に協力を依頼し、社会全体で児童を見守る体制を強化した。**(レスキュー香川協力事業者数 25)**
- ・技術の高度化、商品開発の進歩を高めるための連携・協力
 技術の高度化、商品開発の進歩を高めるため、国立研究開発法人産業技術総合研究所と連携・協力して県内企業の技術開発を支援した。**(県内企業の研究開発支援 新規採択 3 件)**
- ・ものづくり産業の販路開拓・拡大における連携
 戦略的マッチング推進事業等において、大手企業等との連携による展示商談会を開催するなど、県内企業のものづくり技術・製品の販路開拓・受注拡大を支援した。
(本田技研工業(株)との連携による展示商談会：7 月)
- ・県内企業の海外展開を支援するための連携
 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）と連携し、県内企業のニーズに合わせた情報提供や課題解決支援、海外展開を担う人材育成支援等を行った。
(企業訪問数 171 社、259 回、海外ビジネス人材育成講座 12 回開催)
- ・MICE 誘致の推進に向けた連携
 MICE 誘致を効果的に推進するため、行政や観光、宿泊施設などのMICE 関係機関で構成する香川県MICE 誘致推進協議会において、高松市や関係団体との連携を強化することにより、官民一体となって誘致を推進する機運の醸成を図るとともに、情報収集・誘致活動を実施した。**(MICE セミナー：10 月)**
- ・県産品の販路開拓・拡大における連携
 大手食品メーカーや流通事業者との連携による、県産品の販路開拓・拡大を推進した。
(青果物等の試食宣伝や工芸品等の展示即売：首都圏 (396 店舗)・関西圏 (88 店舗)・県内 (57 店舗)、首都圏等でのレストランフェア (25 店舗)、大手食品メーカーによるキャンペーン (2 回))
- ・さぬきうまいもんプロジェクト推進に向けた連携
 食関係の団体等で構成する「さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会」と連携して、優れた食や食材をテーマとしたイベントやPR等を効果的に実施し、県産品の振興を図った。
(さぬきマルシェ：26 回開催、さぬきダイニング：認定店 30 店舗、さぬきうまいもんレシピコンテスト発表会：10 月、全国年明けうどん大会：12 月、うまいもん出前講座：24 回)

- ・地産地消の取組みにおける連携

「かがわ地産地消協力店」の登録や「かがわ地産地消応援事業所」の認定を行い、地産地消の実践につながる取組みを継続・強化した。**(かがわ地産地消協力店 11 件登録、かがわ地産地消応援事業所 15 件認定[平成 30 年 3 月末現在])**

- ・水産物の消費拡大に向けた連携

(一社) 香川県水産振興協会やさぬき海の幸販売促進協議会等と連携し、水産食育教室や体験学習会、かがわファストフィッシュ商品コンテストを実施し、消費拡大のため魚食普及活動を継続・強化するとともに、地域水産物の新しい食べ方や商品の開発を推進した。

(水産食育教室・体験学習会 50 回実施：10 月、香川ファストフィッシュ商品コンテスト実施)

【項目A】業務改善の取組み

既存の業務内容や業務手続などを常に見直すことで、高度化・複雑多様化する新たな行政課題に対応し、組織全体として生産性が向上するよう、業務の全体像や現状を把握の上、業務や事業のあり方、進め方を継続的に見直す業務の棚卸しを行い、あらゆる業務改善の取組みを進めます。また、業務改善に関する職員研修の充実を図ります。

・ **業務の見える化の推進**

チェックリストや業務進行表の作成等により業務の見える化を進めて、効果的な業務進行管理を行い、職員間の情報共有や業務の効率化、引継ぎの容易化、事務上のミスの回避など、組織全体の事務処理の円滑化を図ります。

・ **業務の標準化の推進**

複数の所属において共通する許認可事務等の処理手順や様式の統一、業務マニュアルの整備など、業務知識やノウハウを広く共有することで業務の標準化を進め、安定的かつ効率的な業務遂行を図ります。

・ **事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底**

新たな行政課題に対応するに当たり、事業のスクラップ・アンド・ビルドをより一層徹底し、事業数の管理に努めます。

平成 29 年度実績

○ **業務改善運動の推進**

業務改善の重要性・必要性を職員に浸透させ、全庁一丸となって業務改善に取り組む機運を高めるとともに、課題や場面に応じたさまざまな改善手法を職員が簡単に参照できるよう、実践的ノウハウをまとめた改善推進ガイドブックを作成し、職員の業務改善活動をサポートした。

(2 回作成：「ミス防止」「コスト削減」)

○ **業務改善に関する職員向けの各種研修・勉強会の実施**

・ **職員研修の実施**

管理職によるトップダウン型の業務改善を推進するため、所属長以上の職員を対象として「業務改善研修」を実施するとともに、特別研修において、職員の業務改善スキルを高めるための研修を実施し、若手職員の選択研修としても位置づけ、実際の業務で成果を出すためのヒントを得る機会とした。**(一般研修：業務改善研修 修了者 38 名、特別研修：できる職員のカイゼン講座 修了者 17 名、トヨタに学ぶ業務改善講座 修了者 46 名)**

・ **業務改善に関する勉強会の実施**

職員自ら業務改善の遂行能力を高められるよう、優れた業務改善を実施している職員を講師に迎え、職員同士で意見交換を行う勉強会を開催した。**(2 回開催)**

○ **全庁共通事務の業務棚卸し**

全庁に共通する財務や総務に関する事務手続きに対する改善提案について、平成 28 年度に行った課題整理を踏まえ改善に向けた取組みを進めた。

○ **業務改善部門職員褒賞の実施**

業務改善部門職員褒賞を実施した。**(受賞者 7 名)**

▼業務の見える化の推進

○3S運動の推進

平成28年度から開始した3S（整理・整頓・清掃）運動を年3回実施した。
（3回実施：9月、12月、平成30年3月）

○業務プロセス分析方法の検討

業務の効果と効率を向上させる業務手順への見直しを進めるため、効果的な業務プロセス分析・評価方法を検討した。

▼業務の標準化の推進

○マニュアル作成による業務の標準化の推進

マニュアル作成スキルを高めるため新たに「業務改善につながるマニュアル作成講座」研修を実施した。（修了者20名）

▼事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底

○施策評価の実施

「新・せとうち田園都市創造計画」の施策体系に沿って施策評価を実施し、計画の進捗状況を把握するとともに、評価結果を施策や事業の見直しに反映させた。（議会へ送付・ホームページに公開：10月、懇談会：11月）

○新規重点事業に必要な財源確保

「新・せとうち田園都市創造計画」に掲げる21の重点施策を積極的に推進するため、新規重点事業に必要な財源の2分の1を、政策目的を共にする既存事業等のスクラップ・アンド・ビルドの徹底により確保した。（新規重点枠を活用した事業 29当初予算：1,255百万円）

○事業数の管理

事業の目的・効果、市町・関係団体等との役割分担を勘案した既存事業の見直しなどにより、事業数の管理に努めた。

	29当初		28当初	
	件数	予算額	件数	予算額
新規事業	101	1,458百万円	121	2,440百万円
廃止事業	120	2,053百万円	156	5,172百万円

【項目B】 内部事務手続きの縮減

制度化された事務手続きのほか、旧来からの慣習による事務手続きも含め、効率性向上の観点から改めて検証し、煩雑となっている手続きの縮減や、より効率的な手法の構築に努めていきます。

・ 組織内の権限配分・事務配分の見直し

迅速な意思決定による業務執行の効率化や人材育成の観点から、権限をできるだけ下位職に委譲し、上位職が重要な意思決定や総合調整などに充てる時間を創出します。

・ 会議の見直し

時間を有効活用するという観点から、会議の設置や運営に関する基本的な方針を定め、総数の抑制や運営の効率化に取り組みます。

・ 会計事務処理の合理化

会計に関する事務について、適正な執行を確保しつつ、事務処理の合理化を推進します。

平成 29 年度実績

- 全庁共通事務の業務棚卸し
（[P21] 1－4（A）再掲）

▼組織内の権限配分・事務配分の見直し

- グループリーダー・出先機関課長等への権限委譲

課長等や出先機関所長の専決事項について、類似の業務との均衡を考慮した上で、業務執行の簡素化・効率化につながるものは、できるだけ下位の職に委譲を行った。

▼会議の見直し

- 会議に要する総時間の削減に向けた取組みの実施

平成 28 年度に策定した「会議の運営に係る基本的考え方」に基づき、会議や準備に要する総時間数が削減されるよう、会議運営の見直しを進めた。

▼会計事務処理の合理化

- 発注事務手続きの簡略化

発注事務の合理化や事業者の事務負担の軽減を図るため、平成 28 年度に経済性・公平性の確保の観点から抽出した、随意契約の手続きを簡略化した場合に懸念される課題への対応策を検討し、見直しを行った。（平成 30 年度から一者見積りで足りる基準額を 3 万円から 10 万円に改正）

- 備品の基準額の見直し

備品管理の事務手続きの効率化を図るため、平成 28 年度に適正な物品管理を確保していく観点から抽出した、備品として管理する物品の基準額を上げた場合に懸念される課題への対応策を検討し、見直しを行った。（平成 30 年度から備品として管理する物品の基準額を 3 万円から 5 万円に改正）

【項目C】業務の適正を確保する取組みの推進

事務上のミスや不適切な事務処理を防ぐため、既存事務の手続きを点検し、ミス等の発生リスクを洗い出し、対策を講じる仕組みを検討します。また、情報セキュリティを確保するための体制を整備します。さらに、法令遵守や不祥事防止など職員の規律維持の徹底に引き続き取り組みます。

平成 29 年度実績

○業務の適正を確保するための職員研修の実施

事務上のミスや不適切な事務処理を防ぐため、「事務ミス防止講座」や「仕事のリスク管理講座」の研修を実施した。**(一般研修：事務ミス防止(指導者向け)講座 修了者 133 名、特別研修：事務ミス防止(担当者向け)講座 修了者 21 名、仕事のリスク管理講座 修了者 16 名、整理力向上講座 修了者 25 名)**

○情報セキュリティの確保

香川県情報セキュリティポリシーに基づき、物理的、人的、技術的な各種セキュリティ対策を実施するとともに、当該対策の実効性を確保する観点から、情報セキュリティ内部監査を実施した。**(情報セキュリティ内部監査の実施所属数 10 所属)**

○職員のソーシャルメディア活用能力の向上

([P5] 1－2 (A) 再掲)

○服務規律維持を図るための職員研修の実施

職階毎に実施している「職員の意識改革と危機管理」、「公務員倫理」などの講座については、職責に応じたテーマを選定し、特に留意すべき事項や求められる役割の周知・理解促進を徹底した。**(修了者 663 名)**

再任用職員、任期付職員、嘱託職員、臨時職員に対しても、研修を通じて服務規律の徹底を図った。**(修了者：任期付職員 25 名、嘱託職員 52 名、臨時職員 64 名、再任用職員 24 名)**

○会計事務の適正な運営を確保するための研修の実施

初任者・現任者・責任者別の職階に応じた会計事務研修を実施するとともに、会計事務コンプライアンス研修や出前講座を実施し、公金事務に係る職員の意識啓発に努めた。**(会計事務研修 延べ 503 名参加、コンプライアンス研修 98 名参加、出前講座 5 回実施 延べ 127 名参加)**

○自主検査の実施

公金事務の適正な執行を確保するため、所属長は、年 2 回以上、会計事務に係る関係帳簿の再点検を行う自主検査を実施した。**(実効性を高めるため検査補助員(副課長又は所の次長等の管理職員等)を 9 月から設置。事務ミス事例の庁内掲示板での周知)**

○全庁共回事務の業務棚卸し

([P21] 1－4 (A) 再掲)

【項目D】情報通信技術を活用した事務の効率化の推進

情報通信に関わる新たな技術やサービスを必要に応じて積極的に活用し、業務の効率化やコスト削減を図ります。

平成 29 年度実績

○香川県行政情報提供システムによるウェブページの作成

平成 27 年 3 月に新たに導入した香川県行政情報提供システムの機能を活用し、各所属におけるページ作成の効率化を推進した。

○ペーパーレス会議システムの活用による事務の効率化等

事務の効率化及びエコオフィスを推進するため、紙資料を使わず、タブレット端末により会議資料を閲覧する方法で会議を運営する「ペーパーレス会議システム」の運用を行った。

○災害時オペレーションシステムの整備

災害発生時に、県災害対策本部等において被災現場の状況を動画でリアルタイムに受信できるシステムを整備することにより、情報伝達を迅速化し、事務の効率化を図った。**(整備完了：8 月)**

○スマートフォン等の活用による事務の効率化

スマートフォン等の活用により、情報伝達を迅速化し、事務の効率化を図った。**(9 月に実施した口蹄疫防疫演習で活用)**

○情報通信技術の試験導入に向けた取組みの検討

(〔P6〕 1 - 2 (B) 再掲)

【項目E】マイナンバーの有効活用

マイナンバーを利用して、福祉や税の分野などで行政サービスの向上や業務の効率化を図ります。

平成 29 年度実績

○マイナンバー制度の周知

マイナンバーを利用した行政サービスの向上などに関し、国等と連携して、県民に対するマイナンバー制度やマイナンバーカードの周知を行った。**(リーフレット、広報誌等による広報)**

○マイナンバー制度の運用

県において、福祉分野などでマイナンバーを活用し、行政サービスの向上や事務の効率化を図った。**(11 月から情報連携の本格運用開始)**

2 人材育成・活用の最適化

優秀な人材の確保や、多様な能力を持った職員の育成に努めるとともに、適正な人員配置などにより人材活用を推進し、限られた人員で組織全体として最大限の力を発揮していきます。

2-1 多様な能力を持った職員の育成

【項目A】職員育成方針の見直し

職員の年齢構成や任用形態など組織における職員構成の変化や、女性の活躍推進などの時代の要請を踏まえた職員育成方針の見直しを行い、職員の資質や専門性の一層の向上を図ります。

平成 29 年度実績

○職員育成方針の見直しの検討

これまでの育成方針の内容や、今後の職員構成の変化などの環境変化を踏まえ、人的資源の多様性を生かし、変化に迅速かつ柔軟に対応するといった視点から、職員育成方針の見直しの検討を進めた。**(能力育成期の職員配置のあり方の見直し)**

【項目B】能力実績主義の推進

職員の意欲や能力を引き出すとともに、実績を上げた職員が適切に評価されるよう、職員育成方針とも連動しながら、人事評価制度の効果的な運用に努めます。また、育成面談の活性化や考課者研修の充実などにより公平・公正性の確保や納得性の向上を図り、考課結果を的確に任用や給与に反映させます。

平成 29 年度実績

○人事考課制度の活用

より公平性や納得性の高い人事考課制度としていくため、制度の運用状況を検証し、職員育成方針の見直しの検討とも連動し、必要な見直しを検討した。**(新たな考課システムを試行導入)**

○考課職員の能力向上

管理職や新任グループリーダーに対する考課者研修を実施し、考課者の能力向上を図った。**(修了者 114 名)**

○査定昇給の実施

能力や勤務実績が的確に反映されるよう査定昇給制度を運用した。**(平成 30 年 1 月 1 日昇給)**

○勤勉手当成績率の運用

勤務実績が的確に反映されるよう勤勉手当制度を運用した。**(平成 29 年 6 月期及び 12 月期)**

【項目C】 職員の士気を高める褒賞制度の構築

職員褒賞制度について、より幅広く業績を把握する仕組みを整えるとともに、受賞者の情報を広く発信し、職員の意欲の向上や組織の活性化を図ります。

平成 29 年度実績

○幅広い業績の把握

本来業務の中でも特段の努力や労苦をもって成果を挙げた職員の業績などを幅広く把握するための取組みを実施した。**（職員からの褒賞対象者を紹介する制度の導入）**

○受賞者情報の発信

職員の意欲向上や職場全体の活性化につなげるため、受賞者に関する情報を広く発信した。**（受賞者インタビュー記事を 8 回掲載）**

【項目D】 ベテラン職員からの技術継承の促進

再任用職員を含むベテラン職員の知識やノウハウを、次世代を担う若手職員に効果的に引き継ぐため、技術継承に資する研修を充実させるとともに、OJTを促進する適材適所の人員配置に努めます。

平成 29 年度実績

○再任用職員による技術継承

短時間勤務による再任用制度を運用し、OJTを促進する配置に努め、豊富な知識・経験や技能を有する再任用職員から若手等の後輩職員に対する職場での知識や技能の継承を図った。**（106 名配置）**

○職場研修の推進

職場研修を効果的に推進するため、各所属のOJT指導者や新規採用職員の指導・育成を担当するトレーナーを対象とした研修を実施した。また、職場におけるOJTを推進するため、中堅職員を対象にした研修を実施した。**（新任所属長：OJT指導者研修 修了者 27 名、新規採用職員トレーナー：トレーナー研修 修了者 106 名、トレーナーフォローアップ研修 修了者 90 名、主任：OJT推進研修 修了者 70 名）**

【項目E】 人事交流の推進

本県では得られない多様な経験を積み、視野を広げる場として、国や他県、市町、民間企業など、他団体との人事交流等を推進します。

平成 29 年度実績

○人事交流の推進

複雑多様化する行政課題への対応や人材の育成、行政団体間の連携等を図るため、国や他県、市町、民間企業等との人事交流を推進した。**（計 39 名）**

【項目 F】 専門能力や挑戦力を高める取組み

高度化・複雑多様化する行政課題に対応していけるよう、課題に対して積極果敢に取り組むことができる多様な能力を持った職員の育成に取り組みます。

・ 職員研修の充実

将来の社会環境変化を見通しながら、職員の資質や専門性の向上が一層図られるよう、職員育成方針に沿って、政策形成力、企画・開発力などの能力をさらに開発する講座や改革姿勢とチャレンジ精神を涵養する講座の拡充など、行政能力の向上や業務の効率化に資する職員研修の充実を図ります。

・ 自己啓発への支援

職員の専門性向上のために必要な奨励資格の取得支援、通信教育・セミナー等の各種情報の提供、貸出書籍の充実など、引き続き職員が自己啓発に積極的に取り組むことができる環境整備に努めます。

平成 29 年度実績

▼職員研修の充実

○職員の専門能力を向上させる研修の充実

地域の実情に応じた施策展開に必要な政策立案能力を強化するため、政策形成力、企画力の向上をテーマとした研修の充実を図った。**(特別研修：成果につなげる政策形成力向上講座(2回実施) 修了者 38名、政策形成のための情報収集分析思考講座(新) 修了者 13名)**

○女性のキャリア形成を支援する研修の実施

女性職員が意欲を持って能力を発揮し、県政を担う職員の一人としての役割を果たしていくため、女性職員が活躍する上での課題を把握するとともに女性の活躍の意義や自身の将来のキャリアについて考える研修を実施した。**(30歳若手職員等：女性職員キャリア支援講座Ⅰ 修了者 26名、副主幹等：女性職員キャリア支援講座Ⅱ 修了者 58名)**

○最近の課題等に対応する研修の実施

情報セキュリティ対策や障害者差別解消法の施行、働き方改革の意識づけに対応するための研修を実施した。**(情報セキュリティ対策 修了者 548名、障害者差別の解消 修了者 193名、働き方改革の意識づけ 修了者 403名)**

○職場への復帰を支援する研修の実施

育休職員等が円滑に職場復帰できるよう職場復帰者支援研修を実施した。**(2回開催 受講者数 29名：4月、10月)**

▼自己啓発への支援

○自己啓発を促進するための環境整備

- ・職務遂行に役立つ資格等取得について、より一層の情報提供に努めたほか、自己啓発の参考となる書籍の充実を図った。**(22冊)**
- ・職員の語学力向上と国際感覚の習得を図るため、語学支援研修の充実を図るとともに、職員の語学力向上に向けた取組みを進めた。**(語学支援研修：受講者数 延べ 14名、TOEIC チャレンジ：県庁での TOEIC 試験開催 受験者 14名)**

【項目G】 職員の意識改革

チャレンジ精神の向上、コスト意識や危機管理意識の醸成、縦割り意識や前例踏襲意識の払しょくを進め、職員が常日頃の業務において実践できるよう、階層別研修などの場を通じて職員の意識改革の徹底を図ります。

平成 29 年度実績

○業務改善に関する職員向けの各種研修・勉強会の実施

([P21] 1－4 (A) 再掲)

○意識改革に関する職員研修等の実施

- ・「職員の意識改革と危機管理」をテーマとした研修を各職階で継続するとともに、危機対応能力の向上や現場主義の重要性を認識することを目的とした、現地体験型研修を実施した。**(消防学校現地研修 修了者 184 名、かがわの里海づくりと獣害対策現地研修 修了者 82 名)**
- ・チャレンジ精神やコスト意識、県民本位の発想、目標管理の意識など、職員に求められる多様な資質を向上させるための研修を実施した。**(四国自治体・中堅職員交流研修、自治体会計講座など、職員として必要な資質を向上させることを目的とした特別研修 11 講座における修了者 217 名)**

○職場への復帰を支援する研修の実施

([P28] 2－1 (F) 再掲)

○防災対策講座の実施

南海トラフ地震・津波に関する職務上必要な基礎知識を習得し、災害対応能力を向上させるため、職員向けオンライン研修において「香川県地震・津波被害想定編」「南海トラフ地震に関するDVD視聴編」を実施した。**(職員向けオンライン研修において実施)**

2-2 人材活用の推進

【項目A】適材適所の職員配置

一人ひとりの職員が、それぞれ持っている多様な能力を発揮できるよう、適材適所の職員配置を推進します。

・育成の観点や業務量等を踏まえた適正配置の推進

人材育成の観点や業務量の状況なども踏まえ、最も効率的・効果的に業務が遂行できるよう、職員の適正配置を行います。

・職種にとらわれない職員配置の推進

多様な経験を積むことにより視野を拡大し、職員の能力を引き出していくため、本人の能力や適性、意向も考慮しながら、採用時の職種にとらわれない職員配置を推進します。

・複線型人事管理の推進

特定の分野における専門性の高い職員を育成していくため、職員の適性や能力、経験等に応じて、スペシャリストとしてのキャリアを選択できる複線型人事管理について、新たに法務や病院経営などの分野に拡大して推進します。

・退職者管理の適正化

今後、高齢層職員の退職が増加していく中、再任用職員が引き続き高い使命感を持って能力を発揮できるように適材適所の人員配置や任用前研修を実施するほか、人材バンクの適切な運用を通じて他団体への再就職の透明性を高めるなど、退職者管理を適正に行います。

・意欲と能力のある職員の登用

高度化・複雑多様化する行政課題に積極果敢に立ち向かう高い意欲と能力のある職員を積極的に登用するため、グループリーダー任用チャレンジ制度や管理職ポストチャレンジ制度を実施するとともに、庁内公募制度の見直しなどに取り組みます。

・女性の管理職登用

女性職員の能力をより一層活用していくため、多様なポストへの配置や、キャリア形成に関する研修の充実などを通じて計画的な育成に努め、女性職員の管理職登用を推進します。

平成 29 年度実績

▼育成の観点や業務量等を踏まえた適正配置の推進

○適材適所の人事配置の推進

職員の職階や人材育成の視点を踏まえ、各所属の行政課題や業務量等に応じた適正な人員配置を推進した。

○人事ローテーションの見直し

職員育成方針の見直しを検討する中で、職員の年齢構成等を踏まえた人事ローテーションのあり方を検討した。(能力育成期の職員配置のあり方の見直し)

▼職種にとらわれない職員配置の推進

○職域拡大の推進【人事G】

技術職種を中心とした人材育成を図るため、平成 29 年 4 月の人事異動においても職域拡大を実施する。(15 ポストで実施)

▼複線型人事管理の推進

○複線型人事管理の推進

職員の適性或専門的な能力を生かし、行政課題の専門化に対応するため、複線型人事管理制度を運用するとともに、新たな課題や職員構成などを踏まえ、職員育成方針の見直しを検討する中で、対象とする専門分野や対象年齢等のあり方について検討した。**(庁内公募の対象に、「統計」、「消費生活」、「議会事務」を追加)**

▼退職者管理の適正化

○適切な退職管理の推進

改正された地方公務員法や新たに制定した「職員の退職管理に関する条例」に基づき、退職後の再就職者による依頼などの規制や、任命権者への再就職情報の届け出などを適切に運用し、退職管理の適正を確保した。**(前年度末退職者の再就職状況の公表)**

○退職職員の再任用

県職員として培ってきた知識や技能、経験を踏まえ、再任用職員の適材適所の配置を進めた。**(106名配置)**

▼意欲と能力のある職員の登用

○職員の意欲に基づく任用制度の実施

意欲や能力のある人材を管理職や課長補佐等の指導的ポストに任用するため、管理職ポストチャレンジ制度やグループリーダー任用チャレンジ制度を実施した。

○庁内公募制度の見直し

庁内公募制度など職員の意欲や挑戦する姿勢を踏まえた任用制度について、職員育成方針の見直しを検討する中で、制度のあり方を検討した。

▼女性の管理職登用

○女性管理職の積極的な登用

- ・平成 27 年度に策定した「女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画」に基づき、女性職員の一層の活躍推進に向けた、任用や研修等の取組みを進めた。
- ・平成 29 年 4 月の人事異動において、意欲や能力を備えた女性職員を管理職やグループリーダーなどへ積極的に登用するとともに、人材育成等の観点も踏まえ、幅広い分野への配置を一層推進した。**(女性管理職 31 名 (過去最多：平成 28 年度比 3 名増))**

○女性のキャリア形成を支援する研修の実施

([P28] 2-1 (F) 再掲)

【項目B】ワーク・ライフ・バランスの推進

全ての職員が家庭や地域における充実した生活を送りながら意欲を持って職務に取り組み、十分にその能力が発揮できるよう、柔軟な働き方を可能とする勤務時間のあり方の検討、育児休業を取得した職員に対する復帰支援研修など、仕事と子育ての両立ができる職場づくりを進めるとともに、業務の効率化等による総労働時間の短縮を図ります。

平成 29 年度実績

○仕事と生活の調和ができる職場環境づくりの支援

- ・香川県特定事業主行動計画 2015－2019「香川県庁未来を育てる子育て応援プラン」に基づき、仕事と子育ての両立ができる職場環境づくり、職員の意識啓発に取り組んだ。
 - 〔 香川県特定事業主行動計画の内容を、職員に分かりやすく周知した。〕
 - 〔 父親支援講座を開催し、職員の育児参加の意識を高めた。**(親子 20 組参加)**〕
- ・夏季期間における朝型勤務の実施実績や他団体の取組み状況を踏まえ、柔軟な働き方を可能とする勤務時間のあり方を検討した。**(平成 30 年度から 17 時 15 分からの休憩時間を廃止)**
- ・超過勤務の縮減に向けて集中取組期間を設けるなど、総労働時間の短縮を図った。**(集中取組期間：7 月 1 日～9 月 30 日)**
- ・管理職に対し、特定事業主行動計画に基づき、職員が仕事と家庭生活との調和を図ることができる組織マネジメント能力を向上させる研修を実施した。**(管理職向けワーク・ライフ・バランス研修 修了者 30 名)**
- ・育休職員等が円滑に職場復帰できるよう職場復帰者支援研修を実施した。**(2 回開催 受講者 29 名：4 月、10 月)**
- ・子育て中の職員等を対象に、仕事と家庭生活の調和を保ちながら前向きにキャリアを切り拓き働く未来像を考える研修を実施した。**(一人ひとりが輝く働き方応援講座 修了者 17 名)**
- ・ワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるため、各職階に応じた内容で研修を実施した。**(一般職員・主任・新任グループリーダー・新任課長級研修で実施 (修了者 403 名))**

2-3 優れた人材の確保

【項目A】採用試験・採用活動の見直し

将来の県政を担い、多様な視点を持ち県民本位で行動する優秀な人材を確保するため、面接の実施方法などを見直すとともに、多くの優秀な人材が集まるようリクルート活動の強化やソーシャルメディアを活用した情報発信など、採用活動の充実に取り組みます。

平成 29 年度取組内容

○職員によるリクルート活動の推進

職員が大学等へ出向き、県職員の業務内容や魅力などを学生等に対し、直接語りかけるなど、採用活動を推進した。**(10 大学で 19 回 371 名参加、2 専門学校で 2 回 81 名参加、就職フェア 7 回 212 名参加 (うち高校生対象 1 回 40 名参加))**

○県職員採用関連情報の発信強化

就職情報サイトや県のホームページでの情報発信に加え、ソーシャルメディアを活用して県政情報や県職員の採用関連情報などを継続的に発信する。

県の仕事に興味を持っている学生等の志望意欲を高めるため、県の業務内容を紹介する採用セミナーを開催した。**(193 名参加 : 平成 30 年 3 月)**

○香川県庁インターンシップの実施

次年度に就職活動を控えた大学 3 年生を中心とした香川県庁インターンシップを開催するとともに、期間 1 日のミニインターンシップを開催した。**(インターンシップ 100 名、ミニインターンシップ 60 名が参加 : 8 月)**

○採用内定者に対するきめ細かな対応

採用内定者に対するきめ細やかな情報発信や相談対応を行うとともに、交流周知会を開催し、入庁前から県職員としての意識づけなどを図った。**(交流周知会 88 名参加 : 11 月)**

【項目B】多様な人材の確保

さまざまな行政課題に的確に対応するため、多様な知識や技術、能力を持った人材を確保し、適材適所の配置に努めます。

・任期付職員採用の活用

中期的な解決が求められる高度な課題に対応するため、専門的な能力を持つ人材を機動的に確保できるよう、任期付職員の活用について検討します。

・職務経験者の採用

民間企業等で培った職務経験者の多様な知識・経験を生かして組織の活性化を図るとともに、職員の年齢構成のアンバランスを是正するため、職務経験者採用を実施します。

平成 29 年度実績

▼任期付職員採用の活用

○特定分野における任期付職員の検討

個別の行政課題に対応するため、専門的な知識・経験を有する任期付職員の採用の必要性について、職種・分野などを検討した。

○任期付職員による被災地復興に向けた支援

東北3県への派遣職員について、被災地方公共団体の人的需要も踏まえながら、任期付職員の採用選考を行い、経験豊かな適任者を派遣し、被災地の復興業務を支援した。**(宮城県東松島市へ1名派遣)**

▼職務経験者の採用

○職務経験者採用の実施

平成29年4月において、これまで採用実績のある一般行政事務、社会福祉職、土木職等の職種に加え、新たに建築職や電気職、デザイン職の職種で職務経験者を採用した。**(計23名)**
また、平成29年度採用選考試験会場として、東京会場を追加した。

○今後の採用に向けた新たな職種の検討

民間企業等での職務経験を生かせる分野や、年齢構成の是正等を図るべき職種等について検討し、平成30年4月の採用に向けた採用選考を実施した。**(新たに心理職、電子職について、職務経験者採用選考試験を実施)**

3 財政運営の最適化

県民生活や県内経済への影響等に留意しながら収支均衡を図るとともに、人口減少などの社会構造の変化を踏まえ、限られた財政資源を効率的に活用することにより、持続可能な財政運営を進めます。

3-1 歳入の確保

【項目A】適切な債権管理の推進

・ 県税滞納額の圧縮

貴重な自主財源である県税について、納期内納付の推進や積極的な滞納処分を行うとともに、個人県民税については、特別徴収の拡大や香川滞納整理推進機構の活用による徴収確保を進めるなど、滞納額の着実な圧縮を図ります。

・ 税外未収金の回収推進

使用料や負担金、貸付金など各種制度で生じている県税以外の未収金について、債権所管課職員を対象とした研修等を通じて、債権管理の適正化に取り組むとともに、高額、困難な案件については、税務部門が法的措置を活用して直接回収を行うなど、収入未済額の縮減を図ります。

平成 29 年度実績

▼県税滞納額の圧縮

○納期内納付等の推進

自動車税については、コンビニエンスストアやインターネットを利用してクレジットカードでの納付を活用することにより、納期内納付を推進した。

個人県民税については、県や市町等で構成する「個人住民税の徴収確保対策会議」を通じ、事業所に対して特別徴収の実施を働きかけた。

- ・ 平成 29 年度自動車税の納期限内納付に占めるコンビニ収納件数 104,991 件、クレジットカード収納件数 9,212 件、納期内納付率 87.05%
- ・ 文書の送付等により特別徴収の実施を働きかけた事業所数 22,066 事業所

○滞納整理の強化

財産があるにもかかわらず納税しない滞納者に対しては、積極的に滞納処分を行うとともに、9月から12月までを「滞納整理強化期間」に設定し、県及び市町等が連携して、滞納整理に取り組んだ。また、香川滞納整理推進機構を活用して個人県民税の滞納整理に取り組んだ。

- ・ 滞納処分件数 1,206 件
- ・ 香川滞納整理推進機構による個人県民税徴収実績 約7千万円 [平成 30 年 2 月末現在]

▼税外未収金の回収推進

○全庁的な債権管理体制構築の推進

債権所管課を対象とした研修の実施や庁内の関係課で構成する債権回収対策会議の開催により関係課の情報共有を図り、債権管理の適正化に取り組んだ。また、高額、困難な案件については、税務課が債権所管課から債権の引継ぎを受け、支払督促や強制執行の申立てを行うなど法的手続きによる回収業務を行った。

- ・ 債権回収対策会議の開催 2 回、研修会の開催 3 回
- ・ 引継件数、引継金額 929 件、625 百万円 うち解決件数 583 件、解決金額 415 百万円 [平成 20 年 10 月からの累計で平成 30 年 3 月末現在]
- ・ 支払督促申立件数 54 件
- ・ 強制執行申立件数 6 件

【項目B】多様な資金調達・運用の促進

・ふるさと納税の活用

ふるさと納税の制度について、より多くの人に関心を持ってもらえるよう情報発信や利便性の向上を図ります。

・広告事業の活用

県が所有する施設やホームページなどについて、民間企業への広告枠の販売、ネーミングライツ等の手法を用いて、財源の確保を図ります。

・資金管理・運用の多様化、効率化

基金等について、効率的で多様な資金管理や運用のあり方を検討します。

・外部資金の活用

国等の競争的資金の獲得を積極的に目指すなど、外部資金の活用に努めます。

平成 29 年度実績

▼ふるさと納税の活用

○ふるさと納税の利用促進

「ガンバレさぬき応援寄付」の利便性向上や効果的な周知を図るとともに、寄付をしていた方に対し、寄付額に応じ、返礼品として県産品等を贈呈することにより、ふるさと納税の利用を促進した。(寄付受入実績 1,573 件、26,759 千円 [平成 30 年 2 月 28 日現在])

▼広告事業の活用

○広告事業の活用

ネーミングライツや県ホームページでのバナー広告、県広報誌への広告などを積極的に推進し、財源を確保した。(県ホームページでのバナー広告など、14 件の広告事業を実施)

▼資金管理・運用の多様化、効率化

○基金等の資金管理・運用方法などの検討

基金等について、安全性や流動性、効率性に留意しながら運用益の増加が図られるよう運用方法や運用期間などを検討した。

▼外部資金の活用

○事業実施等における外部資金活用の拡大

- ・国際交流や国際協力事業への外部資金の活用

(独)国際協力機構(JICA)の委託事業による国際協力事業を実施した。(ベトナム・保健医療分野：13,361 千円、ラオス・産業振興分野：15,670 千円)

- ・試験研究における競争的資金の活用

国立研究開発法人等との連携を図り、事業受託など試験研究における競争的資金の活用に努めた。

農業試験場	17 件	48,562 千円
畜産試験場	3 件	2,096 千円
水産試験場	5 件	11,226 千円

3-2 歳出の最適化

【項目A】総人件費の抑制

職員の適正な定員管理を行うとともに、人事委員会勧告を基本に、国や他の都道府県との均衡を考慮しながら適正な給与制度の運用に努め、給与水準を適正に管理します。

平成 29 年度実績

○給与水準の適正化

職員数については、1-1 (B) に記載した定員管理に基づき対応するとともに、職員の給与について、人事委員会勧告を基本に、国や他の都道府県との均衡を考慮しながら適正な給与制度の運用に努め、給与水準を適正に管理した。

【項目B】投資的経費の重点化

投資的経費の総額は現状維持を基本としつつ、景気動向や財源の状況によっては柔軟に対応するほか、防災・減災対策は計画的に実施するとともに、地域と経済の活性化や安全・安心の確保に資するものに重点配分します。

平成 29 年度実績

○投資的経費の重点化

投資的経費の総額は、現状維持を基本としつつ、景気動向や財源状況によって柔軟に対応した。南海トラフ地震の被害想定を踏まえた防災・減災対策は、計画的に実施した。地域と経済の活性化や安全・安心の確保に資するものに重点配分した。**(地震・津波対策海岸堤防等整備事業 (1,898 百万円)、ため池防災対策等事業 (3,167 百万円)、高等学校非構造部材改修事業 (31 百万円)、私立学校耐震化促進事業 (59 百万円) など、防災・減災対策等を実施 (括弧内は 29 当初予算額))**

【項目C】公債費の抑制

金利リスクの分散を図るため適切な償還年数を設定するとともに、県債の調達コストの縮減を図るため、見積り合せの実施による調達を継続することにより、公債費の抑制に努めます。

平成 29 年度実績

○公債費の抑制

金利リスクの分散を図るため、償還年数別残高及び借換債の状況を考慮し、償還年数を設定した。**(10 年債、20 年債)**

資金調達コストの縮減を図るため、金融機関から引受額・金利の提案を求める「見積り合わせ」方式による調達を実施した。**(平成 29 年 4 月の見積参加金融機関数 14 社)**

県債残高の減少を図るため、借換時の実質償還期間延長は行わなかった。

【項目D】管理運営経費の縮減

・ 公共施設の維持管理経費の縮減

庁舎管理関係契約の最適化や県有建物の省エネルギー化等を推進し、維持管理経費の縮減を図ります。

・ 情報システム調達・運用経費の縮減

情報システム運用管理委託業務の見直しなどにより、情報システム関連経費の縮減を図ります。

・ 物品調達費の縮減

備品や消耗品の調達がより少ない経費で行われるよう調達方法などを検討します。

平成 29 年度実績

▼公共施設の維持管理経費の縮減

○施設の維持管理費等の縮減

施設の維持管理費等に充当する一般財源は、対前年度一般財源額の 97%として予算編成した。(29 当初予算 対前年度 ▲39 百万円)

○庁舎管理関係契約の最適化

維持管理経費縮減の観点から、庁舎管理関係契約の最適化を図るため、入札制度の見直しやエリア一括発注などの方策を検討した。(本庁舎の電力調達における一般競争入札の導入：8 月)

○県営水道施設における省エネ設備の導入推進

県営水道施設の更新に当たっては、電気使用量の削減につながる省エネ設備の導入を進めた。(宇多津ポンプ場送水ポンプの更新に当たり小型化：平成 29 年度～30 年度事業)

▼情報システム調達・運用経費の縮減

○情報システム調達審査委員会による審査

情報システムの調達に際して、情報システム調達審査委員会による予算要求時と調達時の 2 段階の事前審査を実施し、情報システムの調達・運用経費を縮減した。(予算要求時の審査 95 件、調達開始時の審査 58 件)

▼物品調達費の縮減

○効率性・競争性の確保によるコスト縮減

単価契約の活用や一般競争入札、定期一般競争見積りなどの実施により、効率性・競争性を確保し、物品調達コストの一層の縮減を図った。

【項目E】契約事務に係る競争性・透明性の推進

より競争性の高い契約方法を推進し、事業効果を確保しつつ、契約の透明性・公平性の確保とコスト縮減に取り組みます。

平成 29 年度実績

○競争性・透明性の高い契約方法の推進

一般競争入札を基本とする契約方法を推進するとともに、契約の性質上、競争入札が適さない場合も、コンペ・プロポーサル方式による企画競争などにより競争性・透明性の確保を図った。**(プロポーザル・コンペ方式による企画競争や競争入札方式の指導)**

○工事契約事務の改善

公共工事の入札・契約における公正性、競争性、透明性の確保を図るとともに、技術と経営に優れた企業の育成、適正な施工の確保を図る観点から、入札契約制度の改善に取り組んだ。**(低入札価格調査基準価格等の改正、入札参加資格における評価項目の見直し)**

○随意契約結果の公表

物品購入や業務委託等の随意契約結果（契約の相手方、随意契約の理由など）を県ホームページで公表した。**(毎月、県ホームページで公表)**

3-3 ファシリティマネジメントの推進

【項目A】県有公共施設等の総合的な管理の推進

公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新、長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化や公共施設等の最適な配置の実現を目指します。

平成 29 年度実績

○総合的な管理の推進

関係部局の課長等で構成する香川県県有公共施設等総合管理推進会議において、平成 27 年度に策定した「香川県県有公共施設等総合管理計画」に基づく維持管理、更新等の取組みや施設類型ごとの長寿命化計画の策定に係る進捗管理を行うなど、公共施設等の総合的な管理を推進した。**(香川県県有公共施設等総合管理推進会議による進捗管理を実施：3月)**

○県有建物の長寿命化・保有総量の適正化等

「香川県新ファシリティマネジメント推進計画」に基づき、県有建物の長寿命化や保有総量の適正化などに取り組んだ。

- ・保全計画を策定した建物について、計画的な保全工事を実施**(議会庁舎外壁タイル修繕、県立ミュージアム自動火災報知設備更新)**
- ・保全計画が未策定の建物 5 棟程度について保全計画を策定**(かがわ総合リハビリテーションセンター(医療・相談部門)、同(援護・コミュニティ)、坂出合同庁舎、教育センター、運転免許センター)**
- ・大規模改修等に当たり、施設整備計画書に基づき、妥当性や効率性等について評価を実施
- ・国や市町と連携し、相互が管理する空きスペースの活用などについて検討**(香川県国公有財産最適利用連絡協議会設置：8月)**
- ・四国ファシリティマネジメント協会と連携し、職員等を対象とした講演会を開催**(参加者数 68 名：8月)**

○公共土木施設の長寿命化

「香川県県有公共施設等総合管理計画」及び「香川県公共土木施設アセットマネジメント基本方針」に基づき、公共土木施設の長寿命化に取り組んだ。

- ・公共土木施設長寿命化計画の策定
橋梁長寿命化修繕計画(更新)、海岸保全施設(水国海岸)長寿命化計画、砂防関係施設長寿命化計画、海岸保全施設(港湾海岸)長寿命化計画
- ・長寿命化計画に基づく工事等の実施
道路橋 39 橋、河川管理施設 2 施設、ダム管理施設 10 ダム、港湾施設 15 施設、下水道施設 2 処理場

○県営住宅の長寿命化

「香川県営住宅長寿命化計画」に基づき、県営住宅の長寿命化に取り組んだ。

- ・長寿命化計画に基づく修繕等の実施
景観改善(4 団地 8 棟)、住戸改善・EV増築等(1 団地 1 棟)、設備改善(3 団地)、維持修繕等の実施(7 団地)

○農業水利施設の長寿命化

「香川県農業・農村基本計画」に基づき、農業水利施設の長寿命化に取り組んだ。

- ・長寿命化計画に基づく修繕等の実施
国営かんがい排水事業(工事 1 地区、4.8km)、県営基幹水利施設ストックマネジメント事業(工事 6 地区、4.2km)

○県管理施設の長寿命化

「香川県県有公共施設等総合管理計画」に基づき、県管理施設の長寿命化に取り組んだ。
・長寿命化計画に基づく維持管理等の実施
地すべり防止施設（3区域）

【項目B】未利用地の処分・利活用

歳入確保や保有コストの圧縮を図るため、未利用地の売却を積極的に推進するとともに、売却困難物件については、貸付等の有効活用手法を検討します。

平成 29 年度実績

○未利用地の売却の推進

未利用となっている県有の土地・建物や企業への分譲用地の売却を推進した。**（未利用地 5 件、売却額 336,871 千円）**

○旧中央病院跡地の利活用の推進

中長期的な観点から旧中央病院跡地の利活用を検討した。

3-4 会計制度の見直し

【項目A】統一的な基準による新地方公会計制度の適用

固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした財務書類の作成に関する統一的な基準により、財務書類等を作成し、ストックも考慮した財政運営に努めます。

平成 29 年度実績

○固定資産台帳の整備等

固定資産台帳の整備及び複式簿記による仕訳等を実施し、統一的な基準による財務書類 4 表を作成した。**（貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書を作成・公表）**

○職員研修の実施

発生主義・複式簿記の導入における財務書類等の作成のノウハウ習得のため、職員への研修を実施した。**（参加者 79 名）**

○ICTを活用したシステムの運用

統一的な基準による財務書類を整備のため、国から提供される ICT を活用したシステムを運用した。**（運用支援・ミドルウェア保守 784 千円）**

○流域下水道事業の公営企業会計への移行準備

平成 32 年 4 月までの流域下水道事業の公営企業会計への移行に向け、新たな会計規程等の検討と固定資産台帳の整備に向けた資産調査に取り組んだ。**（会計規程の内容の検討、32 年度から導入予定の公営企業会計システムの仕様書の作成等、固定資産調査による固定資産に関する一覧表の作成等）**